

「紙上研修」・「現場型出前研修会」・「居場所研修会」による超高齢化団地の防災・福祉波状研修会

特定非営利活動法人 たま咲良の会

〒206-0031 東京都多摩市豊ヶ丘4丁目2番5-109

助成事業の概要

外部協力者の力を借りて、2023 年度から「地域・自宅での看取りを推進・普及するための住民啓蒙事業」に取り組んでいるが、無関心層が多い地域ゆえ苦戦が続いている。そこで、「紙上研修（住民に広報啓蒙紙を配布する）」、「現場型出前研修（活動に前向きな住民グループのところに出向いて研修を行う）」、「居場所研修（当法人のサードプレイスで研修を行う）」の3つのタイプの研修を波状攻撃のように重ねることで、コミュニティの希薄な超高齢化団地、とりわけ UR 賃貸住宅居住区の中に“動き”を創出することを目指した。

1. 紙上研修

5～8 月に、広報普及紙その1～その4を波状発行した。また2・3月の集合研修前にもその5を発行した。

2. 現場型出前研修

6～9 月に重点支援し、その結果豊ヶ丘4丁目に46戸が参加した新しい小さな組合（スタートは自主防災組合）が誕生した。

3. 居場所研修、その後集会所での集合研修

6～9 月と実施したが、当法人サードプレイスのトイレが壊れたことにより、代替場所として集会所を活用した集合研修を2月、3月に実施した。

事業の成果

●『たんぽぽ組』の設立に関する成果

まとめの報告書でも記述したが、事業の成果は2025 年単年度で語るべきではない。貴財団による助成は、2023 年度の社会福祉法人鹿追恵愛会

（山本進理事・施設長）による研修事業「地域・自宅での看取りを推進・普及するための住民啓蒙連続型研修会」から3カ年継続で受けてきた。それが小さいながらも『たんぽぽ組』という全員地域住民が会員となった自主防災・見守り福祉・自宅看取り支援を目的とした会の立ち上がりという果実に繋がった。

この『たんぽぽ組』の設立推進者の一人であるF女史も、この2023 年からの研修事業によって発掘された人材であった。当法人の防災研修、看取り研修を受け、その中で自ら防災備蓄に取り組み、かつ自宅でご主人を看取ったという、この事業にとっては「シンボリックな存在」となったが、この人材を発掘したのは最大の成果だったかもしれない。

次に、『たんぽぽ組』の初代代表者となったK氏は、この地域に転入後、当法人のサードプレイスに顔を出すようになり、そこでの「居場所研修」を契機に地域活動の中心人物を担ってくれるようになった。

また、『たんぽぽ組』の会議場に自宅を提供してくれているU女史も、当法人の集会所研修会や居場所研修に参加してくれた人物である。

これらの主要人物・人材を発掘し、繋げられたことが、当法人の最大の事業成果といえる。

●『たんぽぽ組』と既存地域資源との連携体制の構築

次年度からは、地域住民のみの体制『たんぽぽ組』が中心となって、小さな足下地区4丁目から、防災・見守り福祉・看取り支援の活動を進めていくことになるが、その活動資源ともいえるべき既存団

体との繋ぎもできたことが次なる成果である。

豊ヶ丘自治防災連絡協議会（自治会）やピオニイ保育園は、まず連携を考えるべき有望な地域資源である。2026 年度、保育園での防災演劇上演が決定したことはまず資源活用・連携の一步となる。

●看取り支援に向けた輪づくりの可能性

先述したF女史は自宅でご主人の看取りをした方であり、当法人理事長市村はこれから親を自宅看取りする予定である。この2名が『たんぽぽ組』の2棟に居住していることで、今後、この2棟での自宅看取り支援体制が可能となる時も遠くない。

成果の広報・公表

1. まとめの報告書 300 部を、『たんぽぽ組』の足下である4-2-1号棟、4-2-2号棟の 88 世帯、自治会関係者、そしてこれまでの研修参加者に一人一人手渡しで配布した。

2. 広報普及紙その1～その5は、それぞれ豊ヶ丘4～6丁目の住戸のうち約 1,000 戸に配布したが、加えて、その余部を①の報告書と一緒に手渡した。

3. 『たんぽぽ組』設立時には、世話人たちが手分けして足下である4-2-1号棟、4-2-2号棟の 88 世帯各戸を直接訪問し、『たんぽぽ組』への参加、当事業への参加

4. 『たんぽぽ組』は設立後、地域へのアピール・広報活動を開始した。11 月の屋外地域イベントにも参加し、幟を掲げて会の説明や防災備蓄デモンストラクションを開始している。

5. 『たんぽぽ組』では、地域アピール策のひとつとして、防災演劇の上演というメニューを考案した。集会所での上演だけでなく、2026 年度は『ピオニイ第二保育園』での演劇上演も計画している。これらは、これまで当法人が関係を開拓・構築してきた先であり、当法人の活動資源を『たんぽぽ組』が活用できることは喜ばしい。

今後の展開

従来活動は外部の専門家・活動家頼みであった。とりわけ岩手県立大学の倉原教授、防災・福祉活動家の橘氏、この両名の存在無くしては、当法人設立、そしてコミュニティ希薄地帯多摩ニュータウン賃貸居住区での自治会の設立などあり得なかった。しかし、この両名とて、打っても響かない住民層を相手に、ほぼ刀折れ矢尽きた状態にある。

ようやく 2025 年度に、全て地域住民からなる組織『たんぽぽ組』が立ち上がってくれたことで、これまでの研修活動が無駄にならず、次へと踏み出せる希望が灯った。

これまでは、豊ヶ丘4～6丁目エリアを対象に訴える活動を展開していたが、今後は『たんぽぽ組（46 戸）』を核に、4丁目2-1号棟、2-2号棟という 88 戸の小さなコミュニティから輪を拡げていく方針に転換する。

2026 年度は、集会所や、隣接する保育園での防災演劇上演から地域へのアピールを展開する予定である。

一方、防災だけでなく、報告書冊子でも触れている「自宅看取り支援」についてもアピールしていく所存である。『たんぽぽ組』には、自宅看取り経験者と看取り推進者が複数人居住していることから、可能性も出てくると期待している。